



RS ウイルス母子免疫ワクチンについて

おなかの赤ちゃんのためにできること

妊婦さんにワクチンを接種し、生まれてくる赤ちゃんのRSウイルス感染症を予防することができるようになりました。

このワクチンは、現時点では接種を希望する妊婦さんが自費で接種する「任意接種」ですが、令和8年4月からは公費による原則無料の「定期接種」となることが予定されています。

妊婦さんにRSウイルス感染症について知っていただき、できればワクチンを接種することにより、一人でも重症化する赤ちゃんのRSウイルス感染症を防ぐことができるとよいと考えます。妊娠30週前後に母体に接種することが推奨されています。

妊婦さんにお知らせしたいこと

- ・RSウイルス感染症の多くは軽い風邪症状で済みますが、生まれて半年以内の赤ちゃんがかかると重症化し入院治療が必要になることがあり、時に命にかかわることがあります
- ・RSウイルス感染症にかかって重症化すると、その後喘息になる可能性があるといわれています
- ・1歳までに約50%、2歳までにほぼ100%の乳幼児がRSウイルス感染症にかかります
- ・特に、上のお子さんがある家庭では、そのお子さんが幼稚園や保育園で感染し、生まれてすぐの赤ちゃんにうつしてしまうことがあり、生まれる前から対策する必要があります
- ・このワクチンによる妊婦さん、赤ちゃんに対する心配な副反応や副作用は報告されていません



日本産婦人科医会、日本産科婦人科学会、日本周産期・新生児医学会、日本小児科学会は、RSウイルスワクチンの接種を強く推奨しています。



東京産婦人科医会